

## 情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

## 放送業務委員会（第 50 回）議事概要（案）

日時：令和 5 年 8 月 2 日（水）15:00～16:10

場所：Web 会議(Webex)

出席者：

伊丹主査（東京理科大学）、大槻主査代理（慶應義塾大学）  
岩崎専門委員（東京農工大学）、浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、  
岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、児玉専門委員（一般社団法人電波産業会）、  
下地専門委員（パナソニック(株)）、西田専門委員（日本放送協会）、  
半澤専門委員（(株)TBS テレビ）、廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、  
藤井専門委員（日本放送協会）、丸茂専門委員（(株)テレビ東京）、  
明堂専門委員（(株)KDDI 総合研究所）山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

オブザーバー：

伊藤氏（日本放送協会）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課  
山口課長、西村技術企画官、谷田補佐、伊藤係長、荻原官

## 【配布資料一覧】

資料 放-50-1	放送業務委員会（第 49 回）議事概要（案）
資料 放-50-2	2023 年 8 月～9 月 ITU-R SG6、各 WP 会合の概要
資料 放-50-3	放送業務 WG における検討結果
資料 放-50-4	外国寄与文書審議表（案）
資料 放-50-5	日本寄与文書（案）
資料 放-50-6	ITU-R SG6、各 WP 会合への対処方針（案）
資料 放-50-7	今後の検討スケジュール（案）
資料 放-50-8 （参考資料）	国際電気通信連合（ITU）2023 年世界無線通信会議 （WRC-23）の議題一覧（第 146 回情報通信審議会情報 通信技術分科会資料一部抜粋）
資料 放-50-9 （参考資料）	放送業務委員会構成員名簿
資料 放-50-10 （参考資料）	2023 年 3 月 ITU-R SG6 会合後に承認された勧告等

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

## 1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

## 2. 前回議事概要の確認

資料 放-50-1「放送業務委員会（第 49 回）議事概要（案）」が確認され、案のとおり承認された。

## 3. ITU-R SG6、各 WP 会合への対処について

### 3.1. ITU-R SG6、各 WP 会合の概要について

事務局より、資料 放-50-2「2023 年 8 月～9 月 ITU-R SG6、各 WP 会合の概要」に基づき、次回の会合について説明が行われた。

### 3.2. 外国寄与文書への対処案について

西田専門委員（放送業務 WG 主任）より、資料 放-50-3「放送業務 WG における検討結果」及び資料 放-50-4「外国寄与文書審議表（案）」に基づき、外国寄与文書の審議表案について主なトピックの説明が行われ、案のとおり承認された。今後提出される外国寄与文書への対処については、審議表案を作成してメールにて審議を行うことが主査より提案されて承認された。質疑の概要は次のとおり。

【6B/261 Annex3.5 勧告ITU-R BS. 1688改訂草案に向けた作業文書 大画面デジタル映像応用の配信インタフェースにおけるベースバンド音響システムと音声符号化方式】

児玉専門委員：LSDI の勧告について現在見直しを行っているとのことだが、見直しの結果、勧告が大幅に変更になるという前提で、本勧告を一旦廃止すると理解した。一方、本勧告を現時点で改訂したいという国は、僅かな改訂になるということで、引き続き改訂を支持しているのか。

西田専門委員：本勧告を維持して改訂するのがよいか、または廃止した方がよいか、二つの意見がある。現在の勧告の内容を精査した限り、LSDI に限定した規定はなく、既存のテレビジョンや音声に用いられている技術をそのまま LSDI に流用する内容であるため、改訂よりも廃止が妥当という方針を考えている。さらに LSDI に関連する勧告は多く存在しており、それら全体をどのように扱っていくかが議論となっており、LSDI 関連の勧告の全般の見直しについては今回日本から寄与文書の提案を考えている。

児玉専門委員：本勧告の改訂を強く支持している人がいるというわけではないのか。

西田専門委員：強く支持している人はいない。

### 3.3. 日本寄与文書案について

西田専門委員より、資料 放-50-3「放送業務 WG における検討結果」及び資料 放-50-5「日本寄与文書（案）」に基づき、日本から提出される予定の寄与文書案が説明された。質疑の概要は次のとおり。

【B1 新勧告草案ITU-R BT. [HCCHANNEL]に向けた作業文書に対する意見 グローバルプラットフォームにおけるハイブリッドコンテンツへのチャンネルマッピング】

廣野専門委員：今後コネクテッドTVが普及する中で重要な点になると思われるため、日本寄与文書案での提案のとおり、要求条件と照らし合わせながら現在のレポートを拡充する方向がよいのではないかと思います。視聴者と放送番組を繋ぐという意味でも重要な点である。この点についてはDVBの方が進んでいるため、DVB陣営とも協調していけたらよいのではないかと。

西田専門委員：まずはレポートBT. 2400を拡充することに取り組みたいと思う。その上で、レポートのいずれかの部分を勧告化することも視野に入れてよいと思う。

藤井専門委員：レポートBT. 2400の改訂を優先させる点については賛同する。その上で、当初韓国が提案した受信機側のチャンネルをマッピングするというものは今後本勧告の対象になるということなのか。以前の説明では、受信機の話は対象にならないということだったと理解している。

西田専門委員：韓国の提案は二つあった。前々回の会合に入力された提案は、インターネット経由での配信番組に対するチャンネル割り当てであり、SG6のスコープ外との指摘が一部の国からあった。前回会合では今回の日本寄与文書案にもあるとおり、ハイブリッドコンテンツに対するチャンネル割り当てという形になり、SG6で扱ってもよいと合意されている。内容的な点では、韓国の提案はチャンネルマッピングのための情報をメールやメッセージで送信するという点にフォーカスされており、情報を伝達する手段としてそれらは適切ではないというのが日本の意見である。一方でそのような番組関連情報を何らかの手段で受信機に伝え、受信機が視聴者に対し、プラットフォームに依存することなく共通のユーザーインターフェースで提示できるようになる点は歓迎すべきだと考えている。

【B2 新レポートITU-R BT. [MLP]の提案 VVCマルチレイヤプロファイルのユースケース】

浦野専門委員：本新レポート作成の提案については賛同する。諸外国の動向について、DVBやATSC、SBTVD-F（ブラジル）がVVCを放送に利用する規格案の作成を進めているとのことだが、各団体の中でマルチレイヤプロファイルの扱いは既に具体的に進められているのか。

西田専門委員：現在VVCが放送に使用されているという実態はないが、DVBなどでは規定は既に作成されている。VVCマルチレイヤプロファイルについては、現時点では諸外国において放送に使用するという状況には至っていない。ブラジルでは階層符号化を導入する話があるが、VVCのマルチレイヤプロファイルとは異なるものと聞いている。ATSCにおいても、ATSC3.0はHEVCを用いたものであるが、VVCを使用する検討を始めると聞いている。その中でVVCマルチレイヤプロファイルの扱いも焦点になると考えている。

**【ABC LSDIに関するITU-R勧告・レポートの取扱い提案】**

岡村専門委員：本提案で廃止を提案している勧告について、仮に勧告を維持するとなった際に何か不利益や問題等は考えられるのか。

西田専門委員：仮に勧告を維持することとなった場合も、特段不利益等は生じないとする。一方、SG6という観点で考えた場合、使用されない勧告を残す必要があるのかという点は考えるべきことと思う。

**3.4. ITU-R SG6、各 WP 会合への対処方針案について**

事務局より、資料 放-50-6「ITU-R SG6、各 WP 会合への対処方針（案）」に基づき、会合への対処方針案が説明され、案のとおり承認された。

**4. その他**

**今後のスケジュールについて**

事務局より、資料 放-50-7「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールが説明された。